「杉浦家関係文書」

松伏町指定有形文化財（古文書・典籍・書跡）
昭和５５年４月２日指定

杉浦家の祖は、美濃国竹ヶ鼻城主杉浦定元の長男定政と伝えられています。関ヶ原の戦いでは親兄弟と別れて伊奈家の家臣として徳川方に属しました。その後、船橋に居を構え、伊奈忠次に仕えていましたが、大川戸村の陣屋御殿を拝領し、居を移しました。この陣屋御殿は、慶長５年（１６００）に徳川家康が大川戸に立ち寄った際、伊奈忠次に建設を命じたもので、実際の造営には定政があたったと言われています。陣屋御殿の規模を指示した家康直筆の坪割書も杉浦家に与えられました。杉浦家は一時浪人した後、再び伊奈家に仕えましたが、後に帰農しています。杉浦家文書には坪割書の他にも伊奈家に生じた跡継ぎをめぐる騒動に関連した史料や、伊達政宗の書状など貴重な史料が含まれています。

覚
弐拾五間　つぼの内
拾　間　家
弐拾間　つぼねとあやいた
拾二間　家
五　間　とおり道
十　五　といしきい

慶長五年八月徳川家康坪割書